

第29回「市民と市長のふれあいトーク」の内容（要旨）

と き 平成29年4月24日（月）
テーマ ふくしまっ子津山でのびのび元気回復親子保養プロジェクト
参加者 さよなら原発ママパパ美作ネットワーク
田口雄司さん、和泉富美子さん
西田好孝さん、黒瀬正義さん
為貞祐二さん

市長が、さよなら原発ママパパ美作ネットワークの皆さんに、ふくしまっ子津山でのびのび元気回復親子保養プロジェクトについて伺いました。



参加者 わたしたちは、東日本大震災の福島第一原発の事故による放射能被害に不安を抱える人に、少しでも放射能の不安が少ない所で保養させてあげたいという思いから「さよなら原発ママパパ美作ネットワーク」を立ち上げました。

平成24年から久米ロッジや阿波地域で保養事業を8回行い、延べ300人を受け入れてきました。これまで活動を続けることができたのは、市や大学生、高校生、ボランティアなど多くの支援があったからです。

市長 津山市も島根原子力発電所が100km圏内にあるので、災害時の放射能被害については他人事ではないと感じています。被災地の人たちに、津山の素晴らしい自然の中で保養していただくという皆さんの活動はとても素晴らしいですね。

参加者 保養事業に参加した人から感謝の手紙をいただくこともあり、「津山の空気、水、野菜はとてもおいしく、人は親切です」と喜ばれています。また、放射能被害の不安から、今まで外で遊んだことが全く無かった5歳の子どもから「空ってこんなに広いの？この土は触っていいの？」といった言葉や、「子どもが一日中外遊びをしている姿を見るのが幸せ」という保護者からの声を聞くと、わたしたちにとって当たり前の「日常」が福島では奪われているのだと痛感します。

東日本大震災から5年が経ちましたが、この保養事業を望む人がいる限り、続けていきたいと考えています。わたしたちの活動を多くの人に知ってもらいたいです。

市長 市としても、広報など、できる限りのことを協力していきたいと思えます。